

平安京左京四条一坊跡

2021年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京四条一坊跡

2021年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、電線共同溝新設工事に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

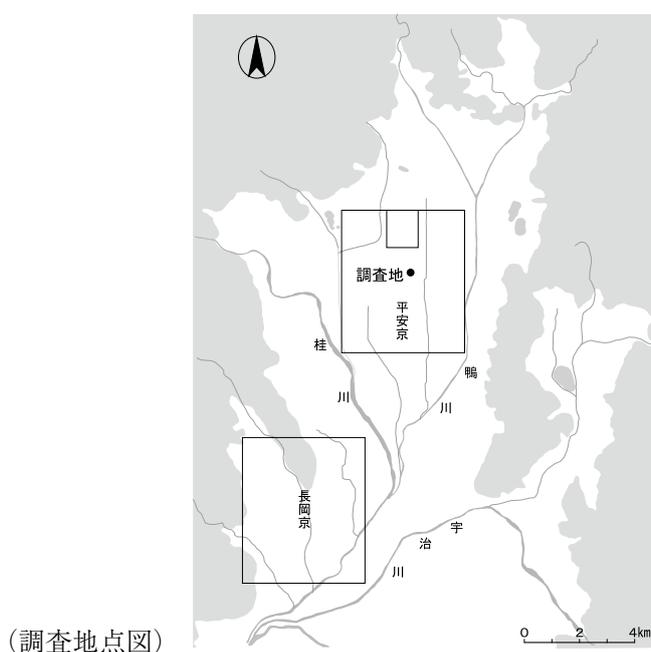
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和3年7月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 平安京跡（京都市番号 20H617） |
| 2 調査所在地 | 京都市中京区壬生朱雀町他 |
| 3 委 託 者 | 京都市 代表者 京都市長 門川大作 |
| 4 調査期間 | 2021年1月12日～2021年5月20日 |
| 5 調査面積 | 約190㎡ |
| 6 調査担当者 | 布川豊治・吉崎 伸・南 孝雄 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 本書作成 | 布川豊治・南 孝雄・近藤奈央 |
| 13 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	6
(1) 歴史的環境と立地	6
(2) 周辺の調査	6
3. 遺 構	10
(1) A区	10
(2) B区	10
(3) C区	11
(4) D区	11
(5) E区	11
(6) F区	12
4. 遺 物	13
5. ま と め	14

図 版 目 次

図版1	遺構	A区平面図 (1:50)
図版2	遺構	A区断面図 (1:50)
図版3	遺構	B・C区平面図 (1:100)
図版4	遺構	B・C区断面図 (1:50)
図版5	遺構	D区平面図 (1:100)
図版6	遺構	D区断面図 (1:50)
図版7	遺構	E区実測図 (1:50)
図版8	遺構	F区実測図 (1:60)
図版9	遺構	1 A区全景 (北西から) 2 A区溝4・5 (南から) 3 B区全景 (北西から) 4 B区溝7 (西から)
図版10	遺構	1 D区北半全景 (北西から) 2 D区南半全景 (北西から)

	3	D区溝14 (北西から)
	4	D区溝14断面 (西から)
図版11 遺構	1	C区全景 (南東から)
	2	E区全景 (北西から)
	3	F区全景 (北西から)
	4	F区溝18 (北から)

挿 図 目 次

図1	調査位置図1 (1 : 2,500)	2
図2	調査位置図2 (1 : 2,500)	2
図3	A～C区調査区配置図 (1 : 400)	3
図4	D区調査区配置図 (1 : 400)	3
図5	E区調査区配置図 (1 : 400)	4
図6	F区調査区配置図 (1 : 400)	4
図7	A区調査前全景 (北から)	5
図8	A区作業状況 (北西から)	5
図9	B区作業状況 (北から)	5
図10	C区作業状況 (北から)	5
図11	D区作業状況 (北西から)	5
図12	E区軌道基礎撤去状況 (東から)	5
図13	E区作業状況 (北西から)	5
図14	F区調査前全景 (北西から)	5
図15	周辺調査位置図 (1 : 5,000)	7

表 目 次

表1	調査区一覧表	1
表2	周辺調査一覧表	8
表3	遺構概要表	10
表4	遺物概要表	13

平安京左京四条一坊跡

1. 調査経過

本調査は、後院通電線共同溝新設（その1）工事（軌道敷撤去）に伴う発掘調査である。

調査地は後院通の道路上に点在して位置する。後院通は明治45年（1912）、路面電車敷設に伴い造られた千本三条から四条大宮に至る道路である。今回の調査は、後院通の電線地中化工事の一環として、地中に残存する路面電車軌道の基礎撤去及び地盤改良工事に伴うものである。調査は原因者から委託された公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

当初、12箇所の調査が計画されたが、道路占有などの制約により京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）の指導の下、6箇所で調査を実施することとなった。調査区名は当初の調査区名が欠落し、また順不同となったため、整理し直して新たに英字名（A～F区）を付した（表1）。

調査期間は2021年1月12日から5月20日までである。A区は1月12～14日、B区は2月15日、C区は2月16日、D区は3月16・17日、E区は4月7日、F区は5月19・20日の月約1回の日程で行った。このうちB～E区は夜間調査であり、当日夜から翌日の深夜にかけて行った。

調査区は幅1.5～2.0m、長さ10m前後で計画していたが、工事の工程により、A区は幅2.5m、長さ10m前後、B区は幅3.2m、長さ7.4m前後、C区は幅5.4m、長さ7.3m前後、D区は幅3.8m、長さ13.3m前後、E区は幅2.1m、長さ5.7m前後、F区は幅3m、長さ13.5m前後となった。調査面積は、A区が約25㎡、B区が約23㎡、C区が約39㎡、D区が約50㎡、E区が約12㎡、F区が約41㎡で、総計約190㎡となった。

昼間調査では、近現代盛土の重機掘削から開始し、遺構面の確認および検出を行った。

夜間調査では、アスファルト・路面電車軌道敷撤去後の近現代盛土掘削から立会を行い、遺構面を確認してから調査を行った。調査終了と同時に、工事業者による地盤改良および埋め戻し、舗装

表1 調査区一覧表

調査区名	旧調査区名	条坊(左京四条一坊)	調査月日(2021年)	調査面積	備考
A区	10・11区	十三町、櫛笥小路	1月12～14日	約25㎡	
B区	8区	十一町、櫛笥小路、錦小路	2月15日	約23㎡	夜間調査
C区	9区	十一町、錦小路	2月16日	約39㎡	夜間調査
D区	7区	十一町、壬生大路	3月16・17日	約50㎡	夜間調査
E区	4区	七町、六角小路	4月7日	約12㎡	夜間調査
F区	1・2区	一町、朱雀大路	5月19・20日	約41㎡	

※ 3・12区は工事範囲外、5・6区は条坊関連遺構推定地ではないため、調査対象外となった。

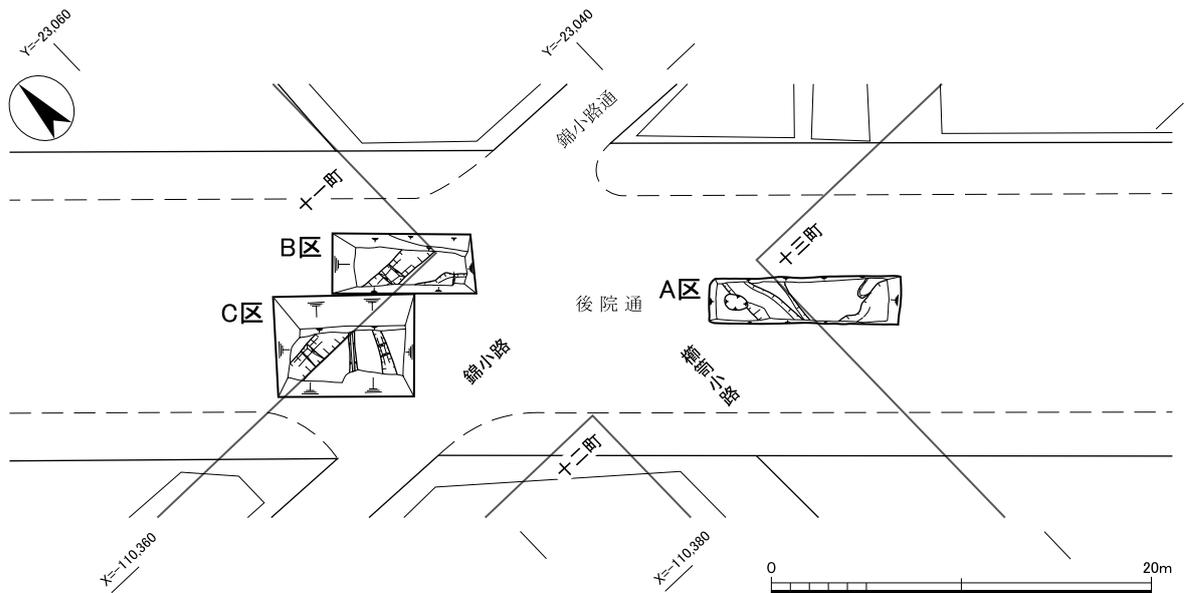


図3 A～C区調査区配置図（1：400）

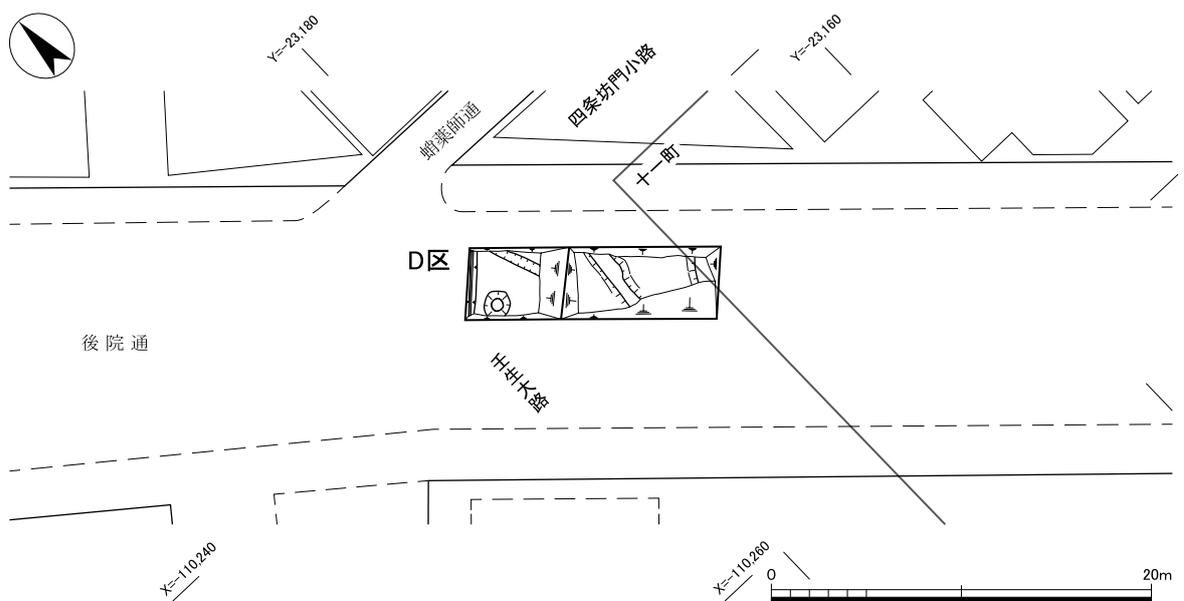


図4 D区調査区配置図（1：400）

が行われ、翌日早朝までに道路の復旧を完了した。

調査は、時間に制約があったことから、遺構検出の精査に留まり、大半の遺構については完掘には至らなかった。しかし、築地推定地について調査した結果、条坊側溝とみられる溝を始めとし、江戸時代の溝や土坑などを確認することができた。

なお、調査中は文化財保護課の臨検・指導を受けた。

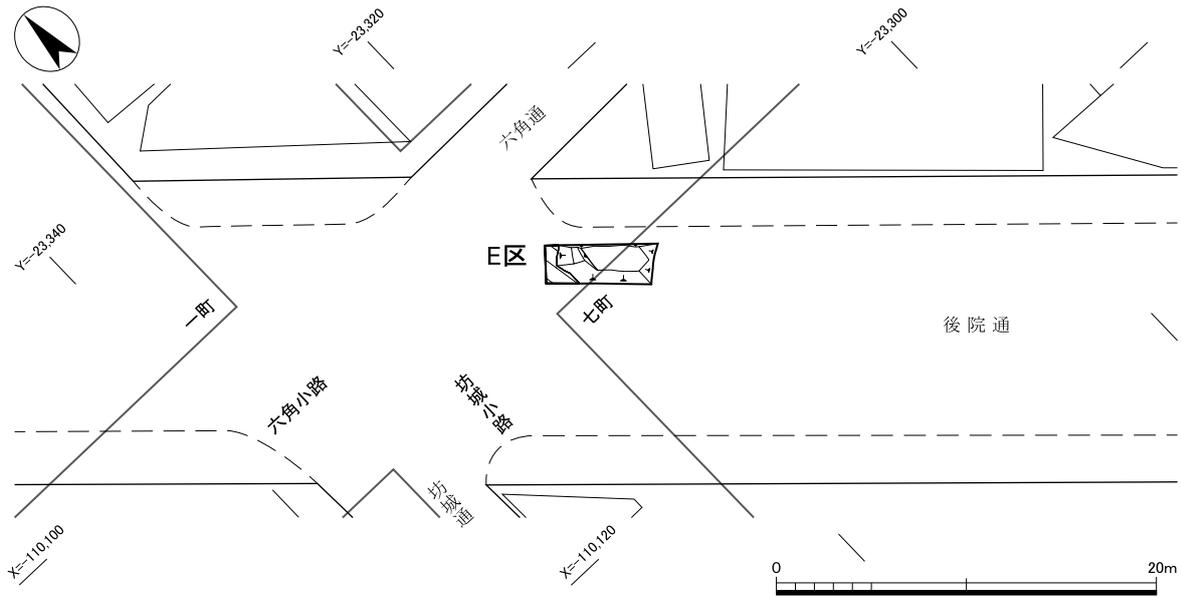


図5 E区調査区配置図(1:400)

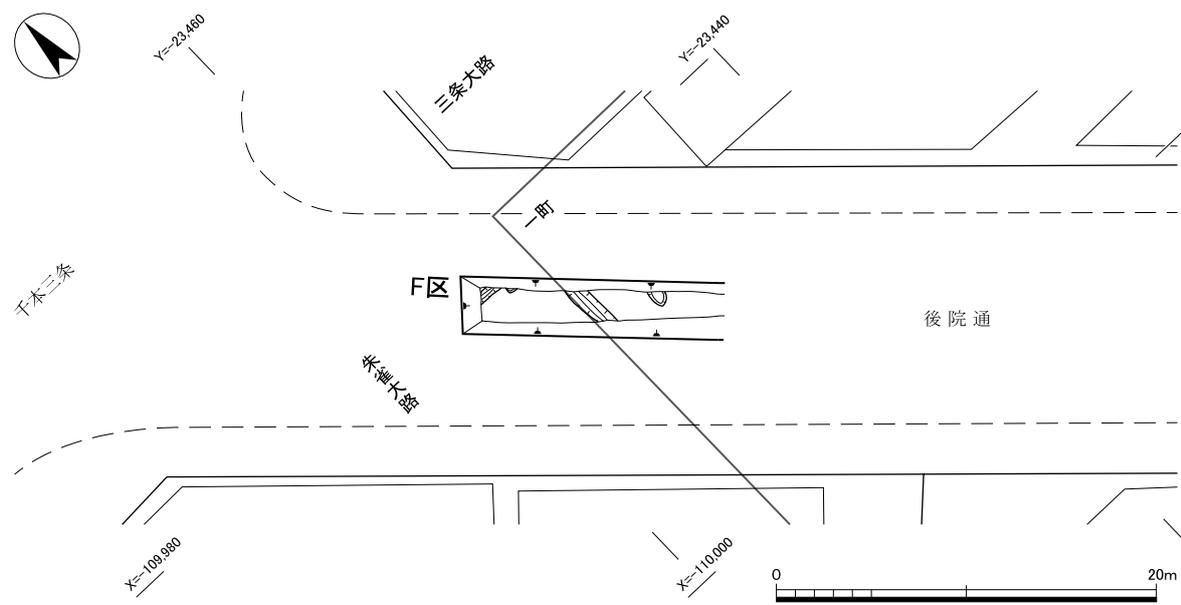


図6 F区調査区配置図(1:400)



図7 A区調査前全景（北から）



図8 A区作業状況（北西から）



図9 B区作業状況（北から）



図10 C区作業状況（北から）



図11 D区作業状況（北西から）



図12 E区軌道基礎撤去状況（東から）



図13 E区作業状況（北西から）



図14 F区調査前全景（北西から）

2. 位置と環境

(1) 歴史的環境と立地

後院通は、千本三条の北西から四条大宮の南東へ斜めに付けられた道路である。平安京跡としては左京四条一坊を北西隅から南東隅へ走る対角線上に位置し、一町・七町・十一町・十三町及び朱雀大路と三条大路、坊城小路と六角小路、壬生大路と四条坊門小路、櫛笥小路と錦小路の各交差点を通る。A区は十三町と櫛笥小路、B区は十一町南東隅と櫛笥小路・錦小路、C区は十一町と錦小路、D区は十一町と壬生大路、E区は七町と六角小路、F区は一町と朱雀大路に位置する。

調査地である左京四条一坊は、史料によると二町、四から六町、八から十六町で、宅地利用が確認できる。二町では、嘉保二年（1095）に散位従四位下の大江公仲が罪に問われて配流される際に、邸宅を処分しており、財産処分状によって邸宅内の様子が明らかとなっている。大治二年（1127）には左大弁藤原為隆が仏堂などを建立し、大規模な庭園を造ったとされている。四町には12世紀前半に権中納言源国信の邸宅、五町には光孝天皇の皇子である是忠親王の御所である「南院」、六町には白河天皇の近臣であった内蔵頭藤原国明の邸宅、八町には右大臣藤原良相が建立した延命院があった。九・十町には、天元四年（981）に円融天皇が遷御した四条後院があった。その後、十五・十六町にあった太政大臣藤原頼忠の四条坊門大宮第の献上によって、あわせて4町規模の離宮が造られた。十二町には応保元年（1161）に焼失した記録の残る菅原貞衡の邸宅、十三町には12世紀前半に中納言藤原家成の邸宅、安元三年（1177）の「太郎焼亡」によって焼失した権大納言中宮大夫藤原隆季の邸宅、十四町には承保四年（1077）に焼亡した民家の記録が残っている。

このように平安時代前期・中期の土地利用状況はほとんど明らかとなっていないが、平安時代後期以降は邸宅だけでなく民家の記録が残っていることから、土地の細分化が進み始めていたことがわかる。

(2) 周辺の調査（図15、表2）

これまでの周辺の調査では、平安時代を中心として中世・近世の遺構が検出されており、平安時代を遡る遺物が出土した地点もある。

平安時代を遡る遺物は、左京四条一坊二・五・六・七町の調査（4・6）で、平安時代の遺物包含層から弥生時代と古墳時代の土器が出土しており、当該期の集落などが周辺にあったことが窺える。

平安時代では、朱雀大路（試10）、四条坊門小路（6、試11）などの路面が検出されており、街路が整備されていた。左京四条一坊では、一町で池（庭園）・六角小路の築地など（1～3、試4）、二町で池・掘立柱建物・井戸など（4）、三町で池（庭園）・池状堆積・湿地状堆積（試6～8、立9）、四町で池（庭園）・溝・井戸など（5、立12）、五町で掘立柱建物・錦小路南側溝（6、立16）、

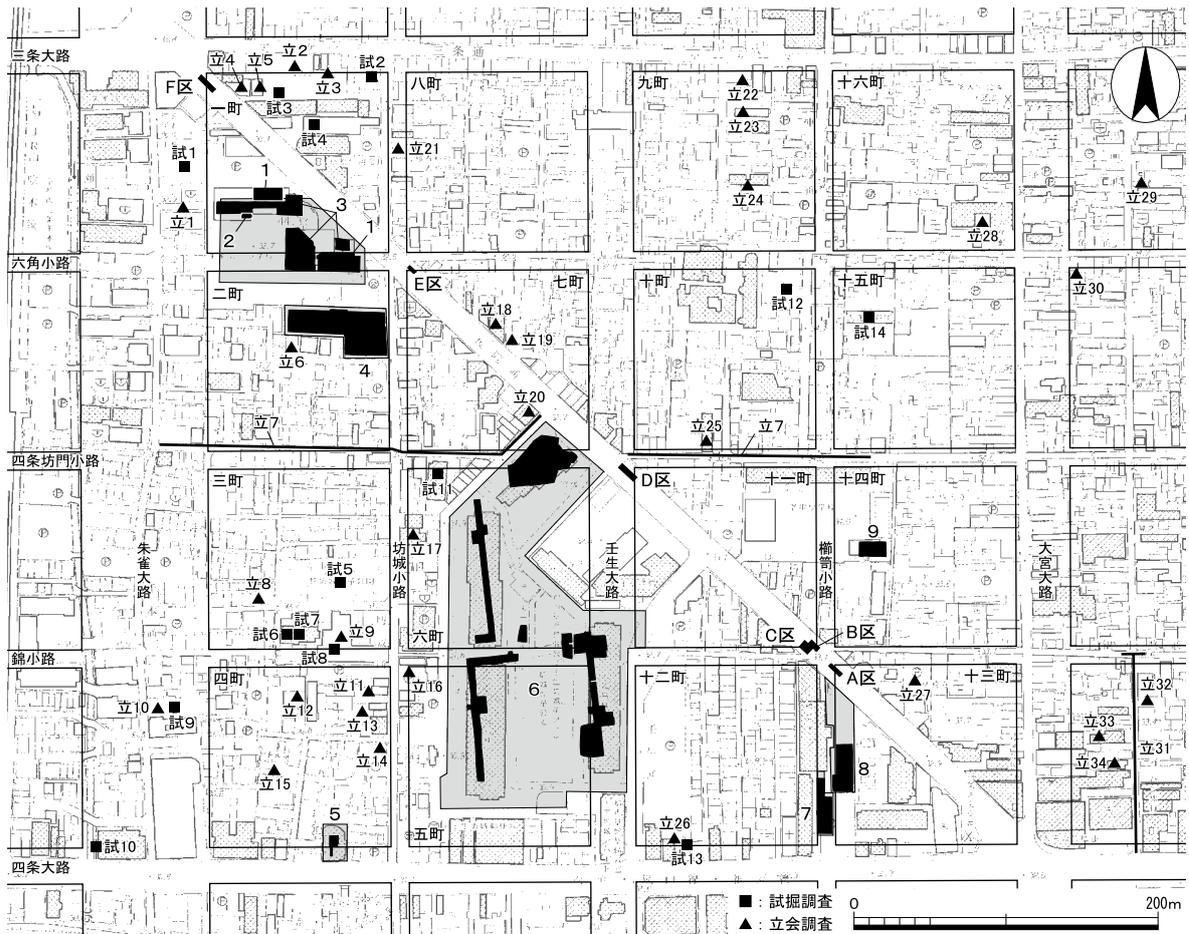


図15 周辺調査位置図（1：5,000）

六町で四條坊門小路側溝・路面など（6、試11）、七町で土坑群（6）、十二町で四條大路北側溝（試13）、十三町で池や井戸（8）が検出されている。特に、二町では、平安時代前期・中期の宅地内排水施設、平安時代後期の池を中心とする庭園遺構を検出し、史料に記述された公家の邸宅や持仏堂とみられる遺構が検出されている（4）。

中世から近世では、左京四條一坊十町で室町時代の池（試12）、十二町と十三町の間で室町時代後期の堀・溝など（7）、江戸時代の土坑（8）、十四町で鎌倉時代の土坑、室町時代の井戸（9）などが検出されている。

時期は明らかでないが、試掘および立会調査で、左京四條一坊二町で四條坊門小路北側溝（立7）、七・九・十町で湿地状堆積（立20・23・25）などが検出されている。

周辺の調査では、平安時代には条坊道路が敷設され、前期には建物・井戸・池（庭園）などが構築されるが、中期には遺構、遺物の出土が減少し、土地利用が低調であったと推察できる。しかし、後期には溝・井戸・池（庭園）などが構築され、土地利用が再び活発になったことが窺える。また、平安時代前期から鎌倉時代までの池や湿地状堆積が多く、調査地点一帯が扇状地外縁部に立地することから、湧水量が豊富な地理環境であったと考えられる。

表2 周辺調査一覧表

No.	条 坊	方法	調査概要	文 献
1	左京四条一坊一町	発掘	平安時代の池など。	『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覧1981』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982年
2	左京四条一坊一町	発掘	平安時代の池。中世の溝。	『平安京左京四条一坊』『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
3	左京四条一坊一・二町	発掘	平安時代前～中期の六角小路南築地下暗渠・北側溝・北築地内溝、井戸、池など。平安時代後期の六角小路路面・北築地・北側溝・南側溝、井戸、溝、瓦溜など。遺物:「朱雀院」墨書の題箋など。	『平安京左京四条一坊』『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
4	左京四条一坊二町	発掘	平安時代前期の掘立柱建物、溝、水場、井戸、土坑、ピット、落込み。中期の溝、井戸、枡状遺構。後期の礎石建物、石組溝、柵、築地、入江、岬、瀬落しなど。	『平安京左京四条一坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-10(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015年
5	左京四条一坊四町	発掘	平安時代前期の井戸。平安時代後期の溝、井戸、土坑、柱穴。	『左京四条一坊』『平安京跡発掘調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
6	左京四条一坊五・六・七町	発掘	平安時代前期の井戸・土坑。平安時代中期の井戸。平安時代後期の掘立柱建物。平安～鎌倉時代の四条坊門小路路面・側溝。中世の掘立柱建物。遺物:弥生・古墳時代の土器、平安時代の墨書土器など。	『平安京跡発掘調査報告-左京四条一坊-』平安京調査会 1975年
7	左京四条一坊十二・十三町	発掘	平安時代以前の旧流路、火山灰堆積。平安時代前期の湿地状堆積。室町時代後期の土坑、堀、溝など。	『平安京左京四条一坊十二・十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-33(財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
8	左京四条一坊十三町	発掘	平安時代前～中期の池。平安時代後期の井戸。中世の井戸、溝、土坑など。近世の土坑など。	『平安京左京四条一坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-10(財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年
9	左京四条一坊十四町	発掘	鎌倉時代の土坑。室町時代の井戸。近世の井戸・土坑・土取穴。	『平安京左京四条一坊十四町』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年
試1	左京四条一坊一町・朱雀大路跡	試掘	-0.9mで近世堆積層、-1.1mで暗褐色粗砂混じりシルトを主体とする朱雀大路路面。東側溝と見られる南北方向溝を複数。	『京都市内遺跡試掘調査概報 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
試2	左京四条一坊一町	試掘	-1.1mで三条大路南溝か。	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
試3	左京四条一坊一町	試掘	平安時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
試4	左京四条一坊一町	試掘	平安時代の池跡。	『平安京左京四条一坊一町跡 No.4』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年
試5	左京四条一坊三町	試掘	-0.6mで灰黄色泥砂の平安時代中～後期の整地土、-0.9mで黄灰色泥砂の平安時代前期の整地土、-1.2mでにぶい黄色微砂の地山。	『京都市内遺跡試掘調査概報 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
試6	左京四条一坊三町	試掘	-0.6mで平安時代前期の遺物包含層。-0.8mで平安時代前期の池状堆積。	『平安京左京四条一坊三町跡 No.12』『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
試7	左京四条一坊三町	試掘	-0.62mで平安時代の遺物包含層。-0.82mで平安時代の池状堆積。	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度』京都市文化観光局 1994年
試8	左京四条一坊三町	試掘	平安時代中期の池。中世の錦小路北溝。	『平安京左京四条一坊三町跡 No.24』『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
試9	左京四条一坊四町・朱雀大路跡	試掘	-1.0mで黒褐色粘土、-1.2mでオリーブ褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡試掘調査概報 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
試10	右京四条一坊四町	試掘	-1.4mで鎌倉時代の遺物包含層。-1.5m以下で平安時代末の朱雀大路路面、不明路面。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
試11	左京四条一坊六町	試掘	-0.76mで平安時代前期～鎌倉時代の四条坊門小路路面・南側溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
試12	左京四条一坊十町	試掘	-0.66mで室町時代の遺物包含層。-0.9mで室町時代の池肩口。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
試13	左京四条一坊十二町	試掘	四条大路北側溝。敷地北東端で室町時代の整地層。	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
試14	左京四条一坊十五町・旧本能寺の構え	試掘	-0.9mで土坑墓、中世～平安時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成27年度』京都市文化市民局 2016年
立1	左京四条一坊一町	立会	-0.66mで灰黄褐色泥砂、-0.93mで灰オリーブ色粗砂の地山、-1.1～-1.33mで明褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
立2	左京四条一坊一町	立会	平安～鎌倉時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立3	左京四条一坊一町	立会	平安～鎌倉時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立4	左京四条一坊一町	立会	-1.6mで時期不明の湿地状堆積。-1.9m以下で緑灰色粘土の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立5	左京四条一坊一町	立会	平安～鎌倉時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立6	左京四条一坊二町	立会	-0.71mで平安時代中期・不明の池状堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
立7	左京四条一坊二・七・十・十五町	立会	四条坊門小路北側溝。	『左京四条一坊』『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年

No.	条 坊	方法	調査概要	文 献
立8	左京四条一坊三町	立会	-0.66mで褐灰色砂礫(氾濫堆積)、-1.21~-1.7mで明褐色砂礫(地山)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立9	左京四条一坊三町	立会	-0.78mで錦小路路面、-1.03mで平安時代前期の湿地状堆積、-1.18mで平安時代前期の池・洲浜。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
立10	左京四条一坊四町	立会	-0.82mで砂礫地山上で鎌倉時代の湿地堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
立11	左京四条一坊四町	立会	No.2:盛土以下、-0.97~-1.15mでオリーブ黒色砂礫(時期不明河川堆積)。No.4:-0.9mで灰色微砂混粘土~粘土質シルト(中世包含層)、-1.2~-1.28mでオリーブ褐色細砂(時期不明河川堆積)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立12	左京四条一坊四町	立会	平安時代後期~鎌倉時代の池・洲浜。銭貨入り壺。源国信の邸宅。	『平安京左京四条一坊四町(05HL167)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立13	左京四条一坊四町	立会	-0.4mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立14	左京四条一坊四町	立会	-1.13mで平安時代後期の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
立15	左京四条一坊四町	立会	-0.77mでにぶい黄褐色粗砂~礫(シルト混)、-0.9mで明黄褐色シルトの地山、-1.24~-1.57mで灰白色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立16	左京四条一坊五町	立会	-0.9mで平安時代後期の錦小路側溝。	『京都市内遺跡立会調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
立17	左京四条一坊六町	立会	-0.7mで平安時代中期の遺物包含層、池状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
立18	左京四条一坊七町	立会	-2.0m以下、褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立19	左京四条一坊七町	立会	-0.23mで暗灰黄色泥砂、-0.41mで明黄褐色砂礫の地山、-0.93~-2.1mで明黄褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
立20	左京四条一坊七町	立会	-0.75mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
立21	左京四条一坊八町	立会	-0.82mで室町時代前期の遺物包含層、-0.95mで坊城小路路面。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
立22	左京四条一坊九町	立会	No.1:-1.0mで灰色泥砂(2~3cmの礫)の室町時代後期包含層を切って暗灰色泥砂とオリーブ灰色粗砂の室町時代の東西溝(土師器皿、瓦質土器羽釜、平瓦)、-1.24mで黄褐色細砂~粗砂の地山、-1.67~-2.1mで明黄褐色粗砂~礫の地山。 No.2:-0.63mで黄褐色粗砂~礫の地山を切って褐灰色泥砂(礫混)の鎌倉時代の土坑(土師器皿)、-0.87~3.0mで橙色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立23	左京四条一坊九町	立会	-1.0mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
立24	左京四条一坊九町	立会	-0.5m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立25	左京四条一坊十町	立会	1区:-0.5~-1.1mで鎌倉~室町時代の遺物包含層。2区:-0.4mで湿地状堆積、-2.2mで砂礫地山。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
立26	左京四条一坊十二町	立会	No.1:-0.95mでオリーブ褐色粘質土、-1.34mで灰色粘質土、-1.57~-2.17mで明黄褐色砂礫の地山。No.2:-1.35mで灰色粘質土の中世以降包含層(丸・平瓦)、-1.52~-1.74mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立27	左京四条一坊十三町	立会	-0.8m以下、近世の包含層。-1.0m以下、浅黄色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立28	左京四条一坊十六町	立会	-1.34~-1.51mで暗オリーブ灰色粘質シルト。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立29	左京四条二坊一町	立会	No.1:-0.7mで灰色泥砂(旧耕作土)、-0.85~-1.27mで明緑灰色微砂混じりシルト(湿地状堆積)。No.2:-0.68mで灰黄褐色泥砂(時期不明包含層)、-0.88mで黄褐色シルト(地山)を切って成立する土坑2基・ピット1基(共に時期不明)。-1.2~-1.34mで黄褐色粘質シルト(地山)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立30	左京四条二坊二町	立会	-0.92~-1.85mまでにぶい黄色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立31	左京四条二坊四町	立会	-1.1mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
立32	左京四条二坊四町	立会	-0.25mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立33	左京四条二坊四町	立会	-1.42mで明褐色細砂(地山)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立34	左京四条二坊四町	立会	-0.5mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年

3. 遺 構

(1) A区 (図版1・2・9)

A区は平安京左京四条一坊十三町北西隅と櫛笥小路・錦小路の交差点から少し南側に位置し、櫛笥小路東築地心推定線が南北に通る。この調査区では、平安時代後期から中世の溝、江戸時代の土坑を検出した。

基本層序 現地表面から厚さ0.7m前後が舗装や軌道基礎などの近現代盛土である。その下は厚さ0.2m前後の中世から近代の耕作土となる。地表面下0.9m前後が遺構面となる。

土坑2・3 調査区南東端で検出した。検出規模は土坑2が東西1.5m以上、南北0.6m以上、土坑3が東西3.3m以上、南北1.6m以上で、いずれも調査区外に広がる。深さは0.1m以上である。土坑2からは江戸時代の遺物が出土した。土坑3からは中世の遺物が出土したが、切り合い関係から土坑3のほうが新しく、遺構の時期は江戸時代以降である。

溝4 (図版9) 調査区北西側で検出した南北溝である。幅約1.5m、長さ3.5m以上、深さ0.15m前後で、調査区外の南北に延びる。埋土は泥土が主体で、砂や小礫が混じる。遺物は中世の土器や瓦が出土した。中世の耕作に伴う溝とみられる。

溝5 (図版9) 溝4下層には東寄りに幅約2m、長さ2.5m以上で、調査区外へ続く溝が重なっていた。深さは0.1～0.2m、一部深いところは約0.4mを測る。埋土は細砂から粗砂が主体であり、埋まるたびに再度掘り直しを行ったため、深さが所々で異なったり、位置が西側へずれていったものとみられる。遺物は平安時代後期から鎌倉時代の土器や瓦が出土した。北東端の一部が櫛笥小路東築地心推定線にかかっており、小路側を通っていることから東側溝であった可能性がある。

(2) B区 (図版3・4・9)

B区は平安京左京四条一坊十一町南東隅と櫛笥小路・錦小路の交差点に位置する。この調査区では、江戸時代の溝を検出した。

基本層序 現地表下0.7mまでが舗装および現代盛土である。その下に厚さ0.2～0.3mの近世の耕作土があり、以下、遺構検出面の地山となる。

溝7 (図版9) 調査区中央で検出した東西方向の溝である。幅約1.1m、長さ2.8m以上、深さ

表3 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代後期 ～鎌倉時代	A区：溝5 D区：溝14	
室町時代	A区：溝4 E区：湿地15	
江戸時代	A区：土坑2・3 B区：溝7 C区：溝10 D区：井戸11、落込み13 F区：溝16・18	溝7と溝10は同一遺構

は約0.45mである。調査区外へ伸びており、西側のC区で検出した溝10と同一遺構であることから、長さは10m以上となる。埋土は黒褐色砂泥である。江戸時代中期の土器や瓦が出土した。

(3) C区 (図版3・4・11)

C区はB区西隣に設定した調査区である。平安京左京四条一坊十一町南東部と、櫛笥小路と錦小路の交差点西に位置する。錦小路北築地心推定線にあたる。調査では江戸時代中期の溝などを検出した。

基本層序 地表下0.3～0.55mまでが舗装および現代盛土、地表下0.65mまでが近世の耕作土である。地山面で遺構を検出した。

溝10 調査区北半で検出した東西方向の溝である。幅約1.3m、長さ3.6m以上、深さ約0.3mである。西側は調査区外へ伸びるが、東側はB区溝7につながる。埋土は暗褐色～黒褐色砂泥である。江戸時代中期の土器や瓦が出土した。

(4) D区 (図版5・6・10)

D区は平安京左京四条一坊十一町北西部と壬生大路東築地心推定線に位置する。調査では平安時代後期から鎌倉時代の溝、江戸時代の井戸や落込みを確認した。

基本層序 地表下0.7mまでが舗装および現代盛土、地表下1.0mまでが近世から近現代の耕作土である。その直下が地山の砂礫層となり、遺構はこの層で検出した。

井戸11 調査区北西で検出した漆喰枠の円形井戸である。掘形直径約1.5m、内法約0.6m、深さ0.2m以上である。掘形埋土はにぶい黄褐色砂泥である。江戸時代中期の土器や瓦が出土した。

落込み13 調査区中央で検出した落込みである。東肩は南北方向、西肩は未掘削部分にあるとみられ、確認できていない。南北3.7m以上、東西2.3m以上、深さ0.5mである。埋土は黒褐色粘質土で、中世以降の遺物小片が出土した。時期は江戸時代以降とみられる。

溝14 (図版10) 調査区東で検出した南北方向の溝である。幅3.6m、長さ3.0m以上、深さ0.35mを測る。埋土は褐灰色粘土で、平安時代後期から鎌倉時代の土器が出土した。壬生大路東側溝と考えられる。

(5) E区 (図版7・11)

E区は平安京左京四条一坊七町北西部と六角小路の南築地心推定線に位置する。この調査区では室町時代の湿地状堆積を確認した。

基本層序 地表下0.9mまでがアスファルト舗装、京都市電の軌道敷きコンクリート、近現代盛土となり、その下層に厚さ0.3mの近世耕作土が堆積していた。さらにその下層には0.8m以上の深さになる湿地状堆積を検出した。

湿地15 調査区全域で確認した湿地状堆積である。南北3m以上、東西2m以上、深さ0.8m以上を測る。埋土は灰色粘土である。室町時代の土器類が出土した。周辺の調査では平安時代前期の

自然流路や平安時代中期から後期の池跡などが調査区西で確認されていることから、後世に至るまで低湿地帯であった可能性がある。

(6) F区 (図版8・11)

F区は平安京左京四条一坊一町北西部と朱雀大路東築地心推定線に位置する。江戸時代の溝などを検出した。

基本層序 地表下1.0mまでアスファルトおよび碎石、現代盛土、その直下に0.35mの厚さで近世耕作土が堆積している。江戸時代の耕作溝などを検出した。

溝16 調査区北西で検出した東西方向の溝である。幅約0.5m、長さ1.4m以上、深さ約0.15mである。埋土はオリーブ褐色砂泥で、江戸時代の遺物が出土した。耕作に伴う溝とみられる。

溝18 (図版11) 調査区中央付近で検出した南北方向の溝である。幅約0.9m、長さ2.4m以上、深さ約0.25mである。埋土は灰黄褐色砂泥で、江戸時代後期の遺物が出土した。耕作に伴う溝とみられる。

4. 遺 物

遺物は整理箱で3箱出土した。時期は平安時代から江戸時代である。その内訳は土器類、瓦類である。各調査区の出土遺物はいずれも少量であり、その大半は小片である。以下に地区ごとの概要を記す。

A区では、平安時代から江戸時代の遺物が出土した。平安時代の遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器、輸入青白磁、瓦類がある。鎌倉時代の遺物には土師器、瓦器、輸入白磁、瓦類がある。江戸時代の遺物には焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類がある。

B区では平安時代から江戸時代の遺物が出土した。平安時代の遺物には須恵器、瓦類がある。鎌倉時代の遺物には輸入白磁がある。室町時代の遺物には土師器、焼締陶器がある。江戸時代の遺物には施釉陶器、染付磁器、ミニチュア土器、瓦類がある。

C区では江戸時代中期の遺物が出土した。土師器、土師質土器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類がある。

D区では平安時代から江戸時代の遺物が出土した。平安時代の遺物には土師器、須恵器、輸入白磁、瓦類がある。鎌倉時代の遺物には土師器、瓦類がある。室町時代の遺物には輸入青磁がある。江戸時代の遺物には施釉陶器、染付磁器がある。

E区では室町時代から江戸時代の遺物が出土した。室町時代の遺物には土師器、須恵器、瓦器がある。江戸時代の遺物には施釉陶器がある。

F区では江戸時代中期から後期の遺物が出土した。土師器、土師質土器、施釉陶器、染付磁器、瓦類がある。

表4 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
平安時代	土師器、須恵器、灰釉陶器、 輸入陶磁器、瓦類				
鎌倉時代	土師器、瓦器、輸入陶磁器、 瓦類				
室町時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締 陶器、輸入陶磁器				
江戸時代	土師器、土師質土器、焼締陶 器、施釉陶器、染付磁器、ミ ニチュア土器、瓦類				
合 計		3箱	0点(0箱)	0箱	3箱

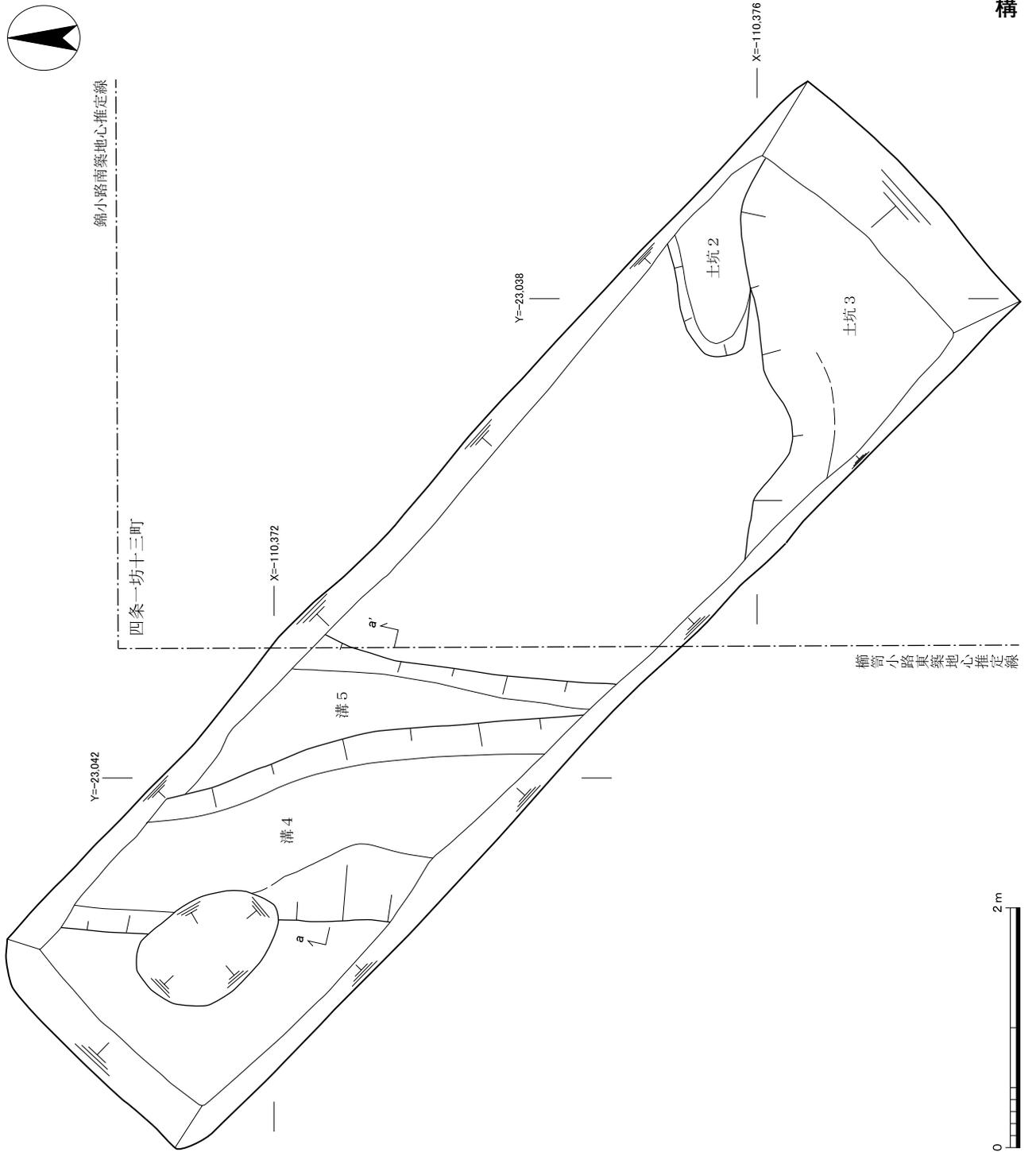
5. まとめ

今回の調査で検出した遺構の多くは、江戸時代中期以降の耕作に伴う溝である。平安京の条坊に基づき施工された側溝などの検出を目的としていたが、平安時代前期の条坊関連遺構を検出することはできなかった。

一方、平安時代後期から鎌倉時代の遺構については、D区で壬生大路東側溝を確認することができた。周辺調査で確認されているこの時期の再開発に関連すると考えられる。A区でも櫛笥小路東側溝の推定位置で同時期の溝を検出しており、中世に至るまで条坊が踏襲されていた可能性が考えられる。

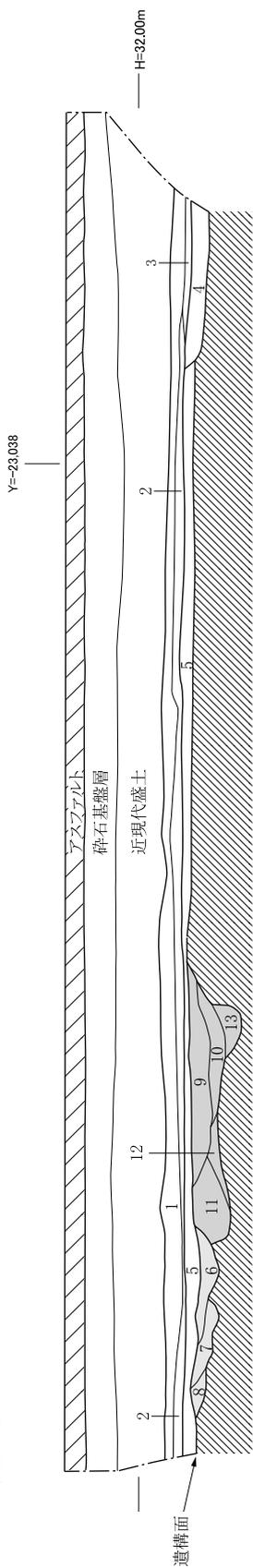
周辺の調査事例から、中世以降の宅地利用がなくなることがわかっており、今回の調査においても室町時代以降には耕作地となっていたことが明らかとなった。中世以降の耕作による土地利用の結果、平安時代以前の遺構面が削平されたことも、平安時代前期の条坊関連遺構を確認することができなかった理由の一つと考えられる。

圖 版

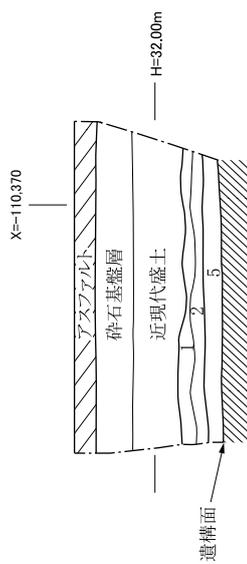


A区平面図 (1 : 50)

北東壁断面



北西壁断面

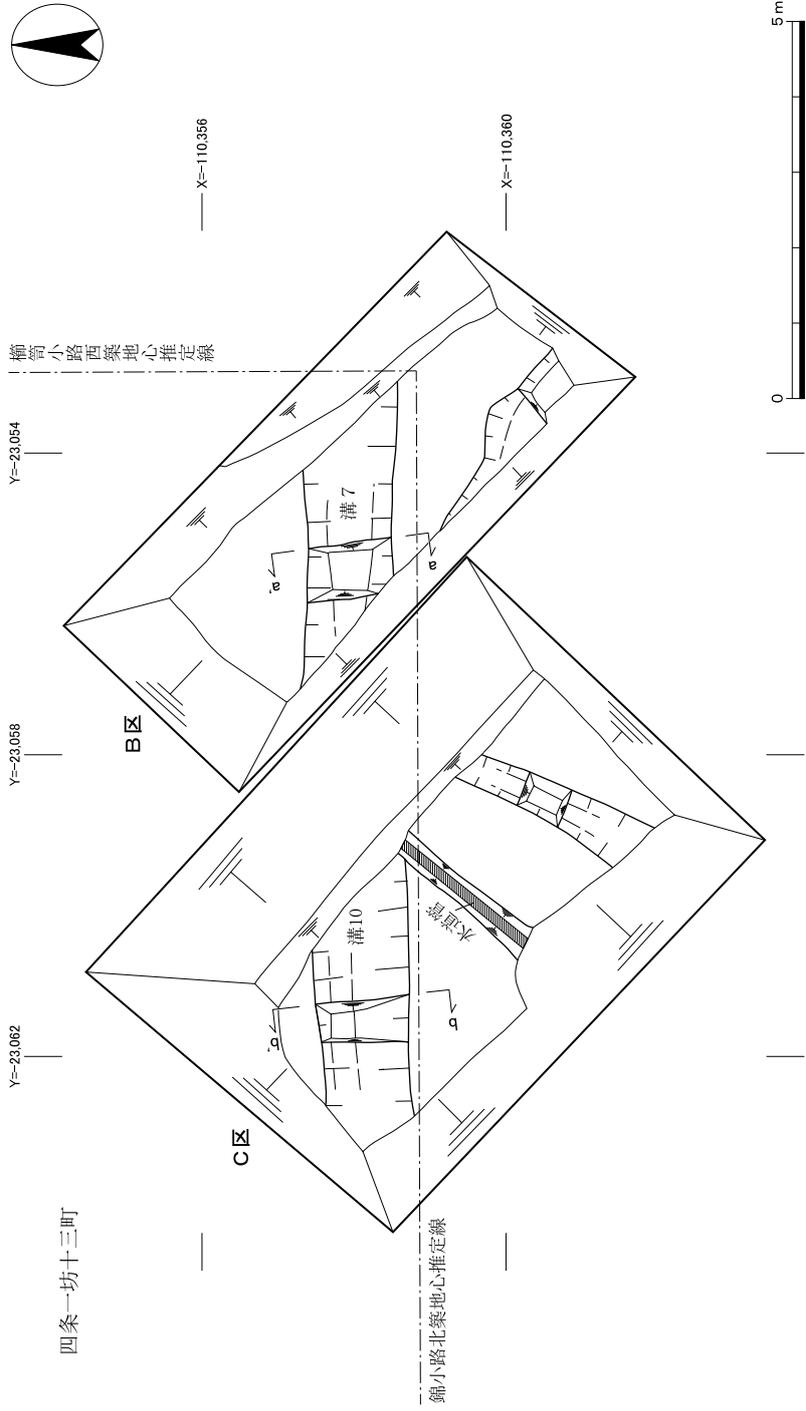


- 1 10YR2/1 黒色~2/2 黒褐色砂泥 やや粘質 耕作土(近世)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質 混細砂
- 3 10YR4/4 褐色砂泥 やや粘質
- 4 10YR3/2 黒褐色砂泥 土坑2
- 5 10YR3/4 暗褐色~4/4 褐色砂泥 やや粘質 混粗砂 耕作土(中世)
- 6 10YR4/1 褐灰色泥土 溝4
- 7 10YR5/1 褐灰色砂泥
- 8 10YR3/2 黒褐色泥土
- 9 10YR3/3 暗褐色砂泥 混φ1~3cm礫中量
- 10 2.5Y3/2 黒褐色粗砂
- 11 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂~粗砂 溝5
- 12 10YR4/4 褐色砂泥 混粗砂
- 13 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色細砂~粗砂

溝4・5断面

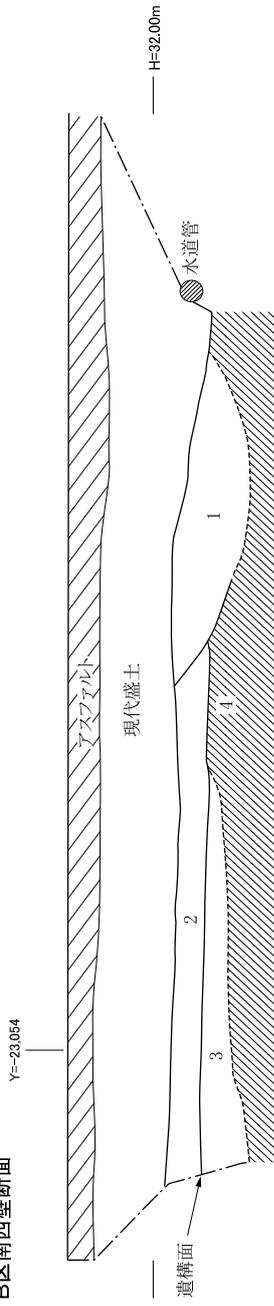


- 1 10YR3/3 暗褐色砂泥 混砂・φ1~3cm礫中量
- 2 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 3 10YR3/4 暗褐色砂泥 混φ1~5cm礫中量
- 4 10YR4/4 褐色粗砂
- 5 7.5YR4/4 褐色砂泥 混φ1~5cm礫少量
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 混φ1~3cm礫少量

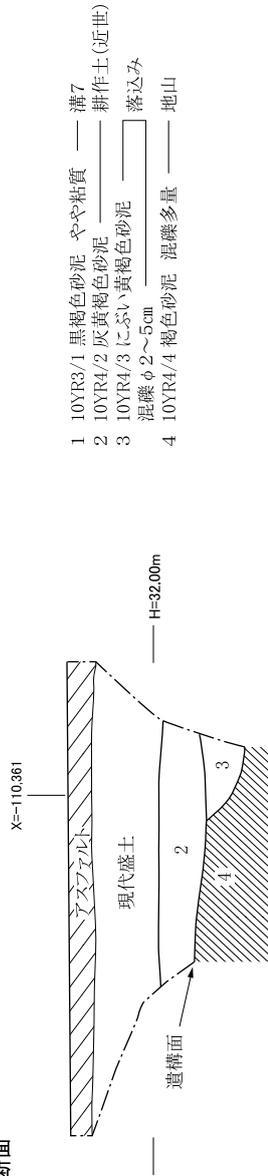


B・C区平面図 (1 : 100)

B区南西壁断面

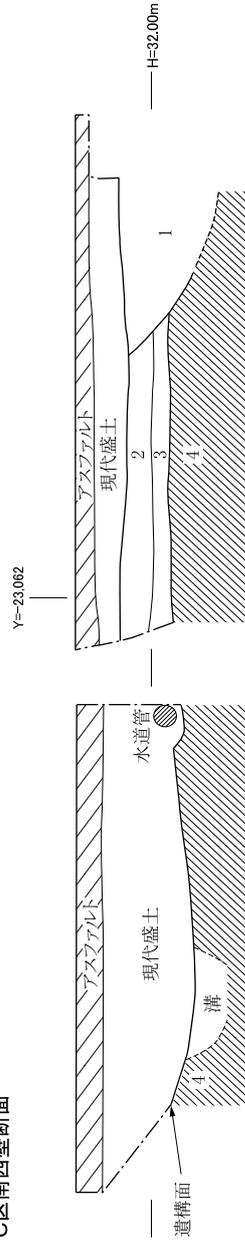


B区南東壁断面

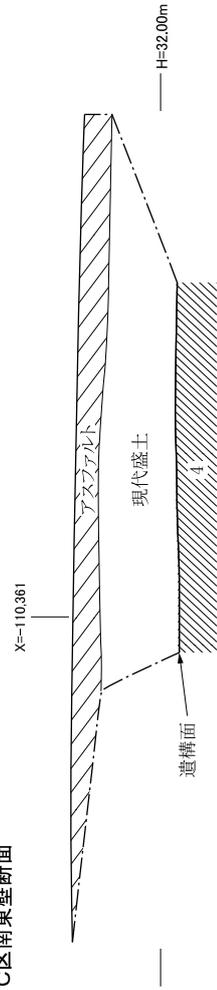


- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 やや粘質 — 溝7
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 — 耕作土(近世)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 — 落込み
- 混礫φ2~5cm
- 4 10YR4/4 褐色砂泥 混礫多量 — 地山

C区南西壁断面

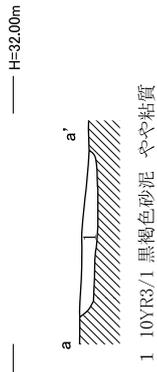


C区南東壁断面



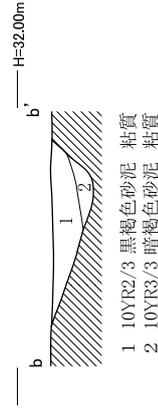
- 1 10YR2/3 黒褐色砂泥 粘質 — 溝10
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 — 耕作土(近世)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 4 10YR4/1~5/1 褐色砂泥 混礫多量 — 地山

溝7断面図

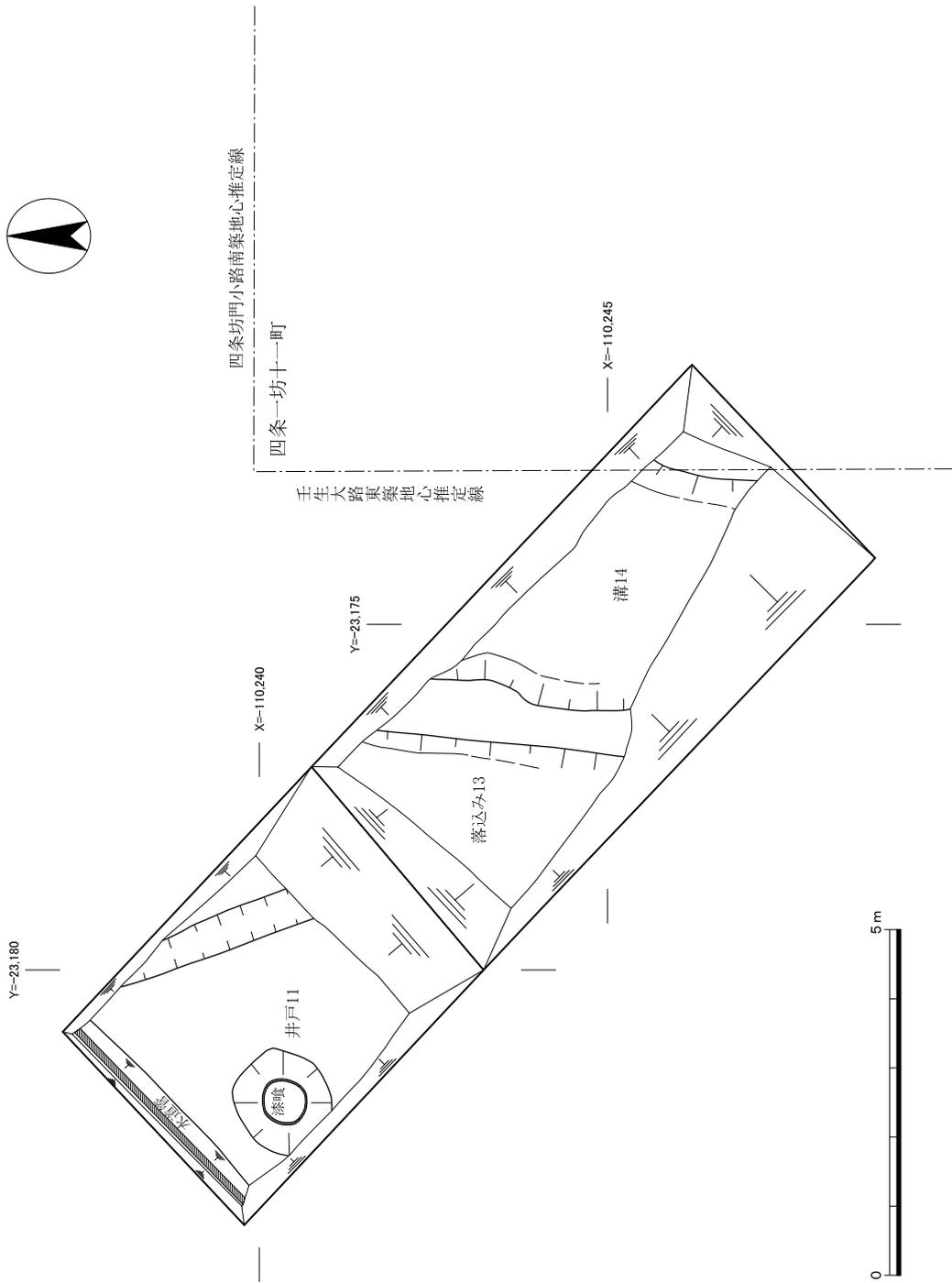


- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 やや粘質

溝10断面図

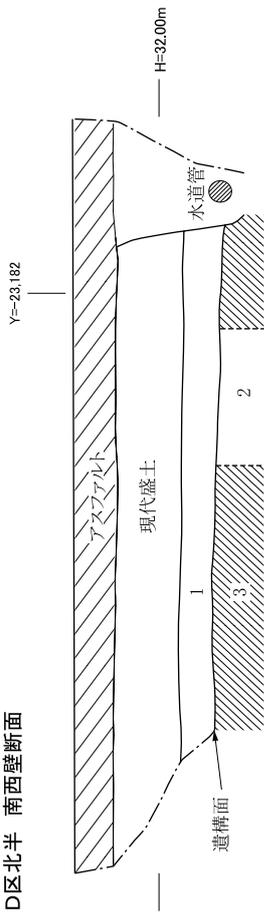


- 1 10YR2/3 黒褐色砂泥 粘質
- 2 10YR3/3 暗褐色砂泥 粘質



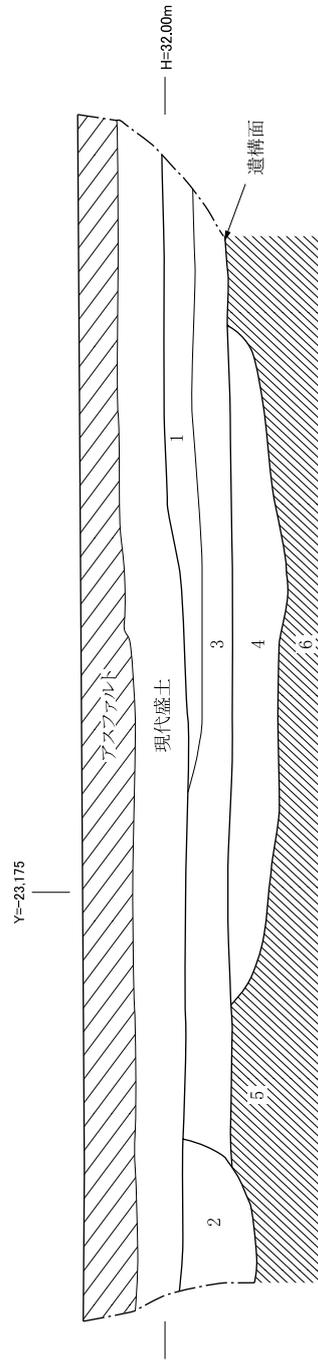
D区平面図 (1 : 100)

D区北半 南西壁断面



- 1 10YR2/1 黒褐色粘質土 耕作土(近世)
- 2 10YR4/3 濃い黄褐色砂泥 井戸1掘形
- 3 10YR4/4 褐色砂泥 混礫φ3~10cm多量 地山

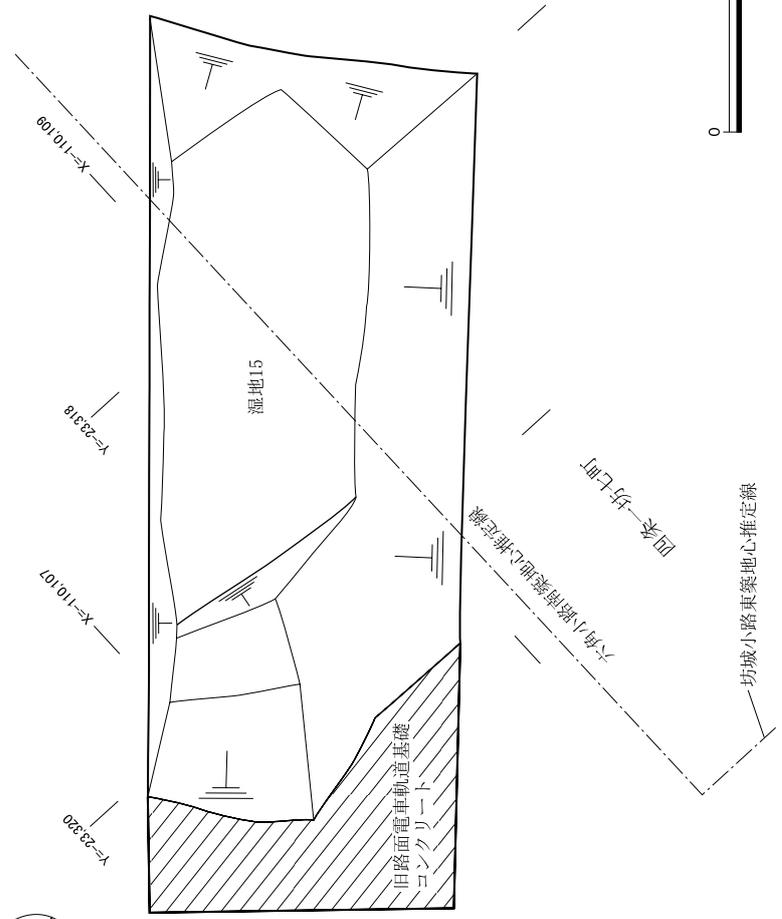
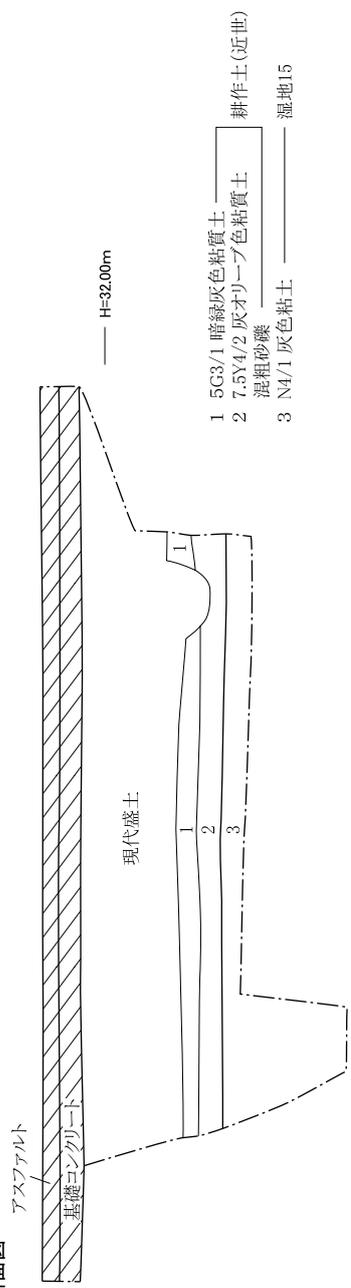
D区南半 北東壁断面



- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土 耕作土(近現代)
- 2 10YR2/3 黒褐色粘質土 落込み13
- 3 10YR2/2 黒褐色粘質土 耕作土(近世)
- 4 10YR4/1 褐灰色粘土 溝14
- 5 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂礫 混礫φ2~5cm
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 混礫φ2~10cm 地山

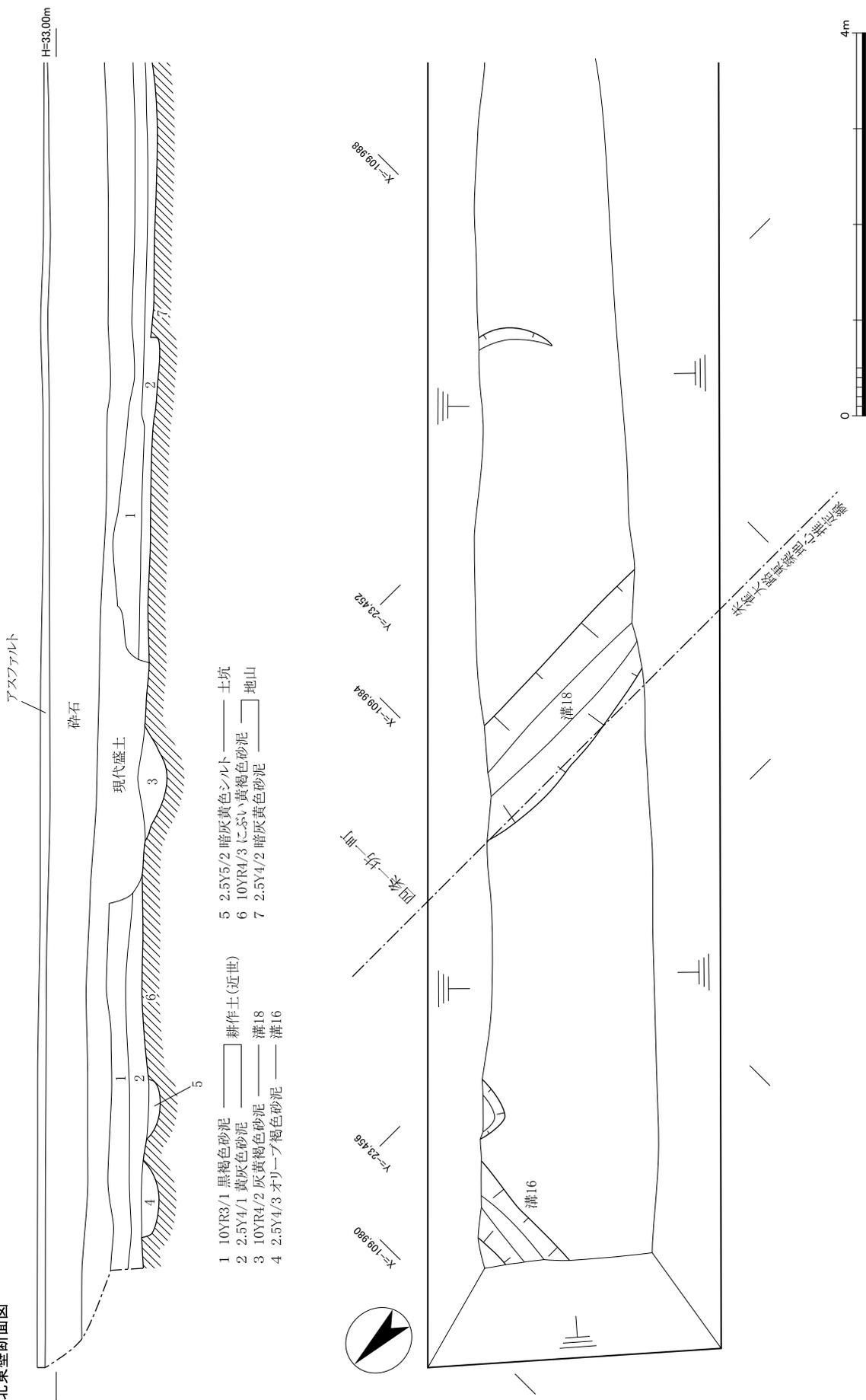


北東壁断面図



図版7 遺構

北東壁断面図



F区実測図 (1:60)



1 A区全景（北西から）



2 A区溝4・5（南から）



3 B区全景（北西から）



4 B区溝7（西から）



1 D区北半全景（北西から）



2 D区南半全景（北西から）



3 D区溝14（北西から）



4 D区溝14断面（西から）



1 C区全景（南東から）



2 E区全景（北西から）



3 F区全景（北西から）



4 F区溝18（北から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうしじょういちぼうあと							
書名	平安京左京四条一坊跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2021-1							
編著者名	布川豊治・南 孝雄・近藤奈央							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2021年7月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 みぶしゅじやくちやうほか 壬生朱雀町他	26100	1	35度 00分 17秒	135度 44分 51秒	2021年1月 12日～2021 年5月20日	約190㎡	電線共同 溝新設工 事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代 ～鎌倉時代	溝	土師器、須恵器、灰釉 陶器、瓦器、輸入陶磁 器、瓦類		平安時代後期から 鎌倉時代の壬生大 路東側溝および櫛 笥小路東側溝とみ られる遺構を検出 した。		
		室町時代	溝、湿地	土師器、須恵器、瓦器、 焼締陶器、輸入陶磁器				
		江戸時代	井戸、溝、土坑、 落込み	土師器、土師質土器、 焼締陶器、施釉陶器、 染付磁器、瓦類				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-1

平安京左京四条一坊跡

発行日 2021年7月30日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961